

自己評価

生徒指導部 教育目標	信頼と愛情を基盤とした共感的な生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	
評価する領域・分野	「生徒指導・教育相談・人権教育」「特別活動（生徒会・委員会・MSL活動）」「部活動」	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職員16・17」の教職員の愛情や熱心さに関する項目では「あてはまる」が90%近くあり、昨年以上に評価を得ている。信頼と愛情を基盤とした日頃の生徒理解、生徒指導が評価されたと考える。 ・「その他29」の安全に関する項目では、80%近くが「あてはまる」、「その他25」のいじめに関する項目においても、75%が「あてはまる」とあり、いずれも昨年度並みである。特にいじめに関する項目は20%近くが「わからない」回答であることから、本校の方針やその取組についての発信が必要と感じる。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動等に対する生徒指導体制の構築。 ・生活上のトラブルやリスクを回避できる等、命を守りきる力を身に付ける学習の充実。 ・生徒会活動や部活動の充実に努め、自主性や主体性を育む。 ・互いを認め合い、より良く生き合うための人権教育、教育相談の実施。 ・地域と一体となった生徒の健全育成、社会自立を目指した活動の充実。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、学年と連携した日常的な生徒指導に関わる働きかけ。 ・不登校や問題行動等に対する支援センター、養護教諭との連携。 ・地域交流部と連携し、年間を通じた地域との活動の場の設定。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任を中心に日常的な生活指導を行い、問題行動のきっかけになる兆候を見逃さず、各担当と連携した指導を行う。 ・時節や生徒の傾向に応じて集会や外部講師による講話、学習の場を設定し、併せて生徒指導だよりを発行する。 ・年間を通じた教育相談の実施、SCとの連携した心の支援を行う。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部を中心とした、問題行動等に対する組織的な対応。 ・学習活動等における生徒の責任ある行動、主体的な活動。 ・生徒指導事案、情報モラル違反事案、事故等が軽減あるいは減少。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動事案に対する学年、担任、関係諸機関との日常的な連携、サポート。 ・交通安全や情報モラル、薬物乱用防止等、自分の身を守るための安全教育の実施。 ・生徒のニーズに合わせたSCやスペシャリストサポート事業の活用と教育相談活動。 ・「より良い学校作り」をテーマとした、年間を通じた生徒会や部活動等の特別活動の実施。 	
評価の視点		評価
<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動等において、生徒指導部が他と連携し、組織的に対応できたか。 ・生徒が自分の言動に責任をもち、主体的に活動できたか。 ・積極的な生徒指導を行い、問題行動や事故等が軽減あるいは減少したか。 		① B C D A ② C D A ③ C D
成果・課題		総合評価
○学年主任を生徒指導部とし、HR担任との迅速な連携が行われ、その都度対応ができた。 ○情報モラル等、外部講師による講話に加え、継続してHR指導を行ったことで、一人一人がより具体的に考えることができた。 ▲規範意識、仲間同士のトラブル等の問題行動が定期的に発生している。 ▲生徒会活動等、主体的に活動を展開していくところまで至っていない。		A ④ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任を中心に学年目標を明確にし、より一貫性のある指導ができるようにする。 ・生徒会活動を充実させ、生徒たち自身による規範意識等の向上を目指す。 ・生徒指導に係る方針や体制の共有、研修等をできる限り早期に行い、生徒の問題行動、心の悩み、不安等に対する適切な対応ができるようにする。 ・生徒指導に関わる取組や啓発、情報提供を迅速に行い、家庭と連携した対応を目指す。 	

学校関係者評価 (令和2年2月27日実施)

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導体制の見直しにより、教員間の連携がスムーズになった。 ・「生徒主体」の主体の範囲を明確にすることで、やるべきことが分かり、やりがいに繋がる。 ・今年度初めて卒業生が出る。卒業生のこれからの社会生活の実態により、今後の生徒指導の課題や目標が明確になる。進路指導部と連携し先を見据えた指導体制を構築してほしい。

